

単元名：筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

教材「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」（光村6年下）

## 主張文V

## 平和への主張

M・U

今、世界のどこかで毎日、銃におびえながら暮らしている人々のことを想像したことがありますか。意味のない戦争をして、それに文句も言えず、巻きこまれている人々のことを考えると、わたしは、とても気持ちが重くなります。

現在、世界では、約四千万人を超える戦争や内戦による難民がいます。難民となった人人の生活は過こくです。まず、食べ物がありません。きれいな水さえ飲めない人々もいます。子どもも働かされ、学校に行くこともできません。好きなことなど一切できません。それどころか、内戦による無差別な攻撃のために、いつ殺されてしまうか分かりません。親や兄弟が目の前で殺されてしまい、一人ぼっちになってしまった子もいます。わたしは、食事は毎日三回できるし、学校にも行けます。父や母が働いてくれるおかげで何の不自由もありません。思い切り遊べるし、疲れたら温かい布団で寝ることもできます。わたしにとっては、当たり前のことです。難民の人々の生活など、想像したくもありません。でも、それが現実なのです。戦争を起こす人たちは、なぜ、このような人々の思いをまで感じてあげられないのでしょうか。

でも、一方で難民のために活動している人たちがいます。国連の難民高等弁務官事務所という組織や自分たちから立ち上がった「国境なき医師団」等のボランティアグループです。これらの団体は、難民を助けるための様々な援助隊を行っています。食べ物を提供したり、けがの治療をしたりするのが中心です。また、自分の国に帰れるまでの住まいを用意したりしています。わたしは、本当にすごいと思います。そして、みんながこんな人たちみたいになればいいのにと 생각합니다。実際に苦しむ人々に触れれば、きっと戦争を起こそうという気はなくなると思います。自分や自分の家族にあてはめてみればいいと思うのです。でも、まだまだ援助は十分ではないそうです。戦争に使うお金はあるのに、なぜ、こんなのに使わないのかがわたしにはわかりません。

戦争を起こして難民の声を一つも聞いてくれない人がいれば、難民を助ける等、日々苦しんでいる人々の力になれる人もいます。どちらが人として立派でしょうか。わたしは、難民の力になれる人をもっと増やすことができればいいと思います。そのためには、世界中のみんなが人の気持ちが分かる人になるべきだと思います。小さいうちから争いや暴力を許さず、難民のために活動する人たちのような優しい心を持った人間になれば、きっと戦争を起こそうとは思わなくなると思います。そして、世界中の人々が、わたしたちの暮らしと同じように、安心して暮らせる平和な世界の実現へ一歩ずつ近づいていくのです。皆さんは、そう思いませんか。